

株式会社DTP寄附講座 「知的財産権とビジネスモデル」

「第7回・株式会社RIMONO 根津浩太 様」

氏名：清水 快

学部：総合政策学部 学年：2年

学籍番号: 71504152

CNS: s15415ks

質問1： アイデアは敵の中にあるを「ハウツーにはしたくないが、自分のこれまで開発過程の中での失敗談を話している中で、結果的にハウツーになってしまう」とウェブでは記載されていますが、本質的には根津さんはどのように今回の書籍を書いていて、どのようにとらえていたかだと思いますか。

質問2： 現代では様々な革新的な機器は研究を重ねた上でのプロダクトアウトの人が多いと思われれます。だが、少なからず、プロダクトアウトしても社会には早すぎやタイミングなどの問題が大きく関わってくると考えています。

タブレットなどはパルムパイロットなどの時代からありましたが、今となってApple Penなどがあります。プロダクトアウトをする上でのプロセスとして大切にしてきたことがあればお聞きしたいです。

質問3： 自動車というものはパーソナルなものであり、自分を代弁してくれる面もあったりや相棒のようになっていたりウェブメディアで記載されていますが、根津さん自身は今の時代のUBERの流れから見られる「シェアリングエコノミー」の拡大についてどう考えていますか。

質問4： BMWなど海外では様々な会社がコンセプトカーとして人工知能で自動運転する自動車が開発されています。そのために、運転手と家族であったり、運転手と乗ってる人の関係が変わってると考えています。その新たなコミュニケーションの場として確立されると思いますか。

質問5： プロトタイプを行う前に感性などを伝える時に、言葉などで表現できる部分とできない部分があると感じてます。また、共感しづらい部分であったり、価値を提案するために非常に困難であると思いますが、企画書を伝えるために気をつけていることがあれば知りたいです。

